

# 全国の林業大学校学生の意識調査

長野県林業大学校 林学科 2年 ○ ちしろ 千代 宗平  
○ ほんま 本間 丈瑠

## 要旨

近年、全国各地に多くの林業大学校が創設されています。将来、林業現場の中核を担う人材育成のために設けられた施設ですが、果たして学習内容や環境は整っているのでしょうか。全国の林業大学校にアンケート調査を実施し、これからの林業界に必要な人材を育てるためにはどうしたら良いか、理想的な大学校像について考察しました。

その結果から、林業大学校のあるべき姿、改善すべき点をいくつかあげ、今後長野林大が取り組まなければならないことについて指摘しました。また、支援金制度や国の施策に目を向け、林業大学校の位置付けを再確認しました。

## はじめに

調査は、表1にある全国11校の林業大学校を対象にアンケートを送り、学校事務局と学生約10名に回答してもらいました。表2の項目について質問し、アンケートを集計しました。その結果から、各校の学生がその体制・カリキュラム・授業・施設等についてどう考えているか分析しました。中には1年制の専修学校ではない研修施設もあり、学生の年齢や経歴、教育内容、実習設備に差が見られたので課題を取り上げて考察しました。このことから、全国の林業大学校のあるべき姿を学生の視点から見つめ、長野林大の今後の発展に繋げていこうと考えました。

表1 調査対象とした林業大学校

秋田林業大学校	山形県立農林大学校
群馬県立農林大学校	長野県林業大学校
静岡県立農林大学校	岐阜県立森林文化アカデミー
(ふくい林業カレッジ)	京都府立林業大学校
島根県立農林大学校	とくしま林業アカデミー
高知県立林業学校	

表2 アンケートの内容

(学生用)	
ア. 年齢、性別、入学の理由	イ. 入学までの経歴
ウ. 授業内容	エ. 講師等の実習内容
オ. 実習設備	カ. 給付金・奨学金制度
キ. 就職・進学先	
(学校事務局用)	
ア. チェーンソー等の備品	イ. 高性能林業機械の有無
ウ. 一般教養科目・専門科目の時間数	

## 1 調査結果

### (1) 学生用

#### ア. 年齢、性別、入学の理由

回答者の年齢は、87%が高卒で入学した20歳以下の学生でした。1年制の学校である徳島と高知は、他校と比較して高齢の学生の割合が高く、学習期間が1年間で、社会人や4年制大学からの入学生が多いことが分かりました。性別は88%が男性で、群馬・長野・京都では女性の割合が44~20%と他校よりも高い値でした。入学理由は、80%の学生が林業に興味があったから、自然が好きだからと回答しました。岐阜では林業に興味があったからと回答した割合が73%と高い値でしたが、群馬・島根・山形では18~36%と低い値でした。一方、学校の先生や家族に勧められたからという回答が多い学校もありました。

#### イ. 経歴

87%が高卒の学生でした。島根・長野・静岡・群馬・秋田では高卒の割合が高く、徳島と高知では大卒・社会人の割合が高い値でした。回答結果から、農林系の高卒だけではなく、普通科を出た学生も全国的に多いことが分かりました。また、1年制の学校では大卒・社会人の割合が高く、転職を見据えた学生も多いことが分かりました。

#### ウ. カリキュラム・授業内容の満足度

71%の学生が満足していると回答しました。どの林大もチェーンソーや林業機械を使用した実習だけではなく、森林生態学や木材流通論等の専門知識について学んでいることが分かりました。また、現在のレベルの学習だけではなく、より高度で発展的な学習をしたいという意見もありました。

#### エ. 講師等の実習内容の満足度

83%の学生が満足していると回答しました。徳島・島根・秋田では全員が満足していると答え、長野と静岡では40~30%の学生が満足していないと回答しました。その理由として、「専門の職員が教えていない教科がある」や、「指導者が安全装備を軽視しており危険を感じた」などの意見もあり、講師のレベルに差があると感じました。

#### オ. 実習設備の満足度

78%の学生が満足していると回答しました。高性能林業機械を所有している徳島・島根・岐阜の3校は満足度が高かったです。また、60%以上が満足していないと回答した長野と高知は、「現場との装備や設備にギャップを感じる」や、「実習時の道具が少ない」などの意見がありました。

#### カ. 給付金・奨学金制度の満足度

林業大学校の大きな特徴として、林野庁が行っている緑の青年就業準備給付金を利用できることがあります。この給付金や奨学金などの制度については、72%の学生が満足しており、国や県の補助制度が充実していることが分かります。なお、この給付金制度は「将来的に林業経営を担い得る有望な人材」を育成することが趣旨ですが、本当にこの制度に合致する教育が各校でなされているのか気になるところです。

#### キ. 就職・進学先について

67%の学生が森林組合・素材生産会社に就職したいということがわかりました。その中でも、1年制の学校や島根・京都・岐阜では、現場志望の割合が高かったです。静岡についてはその他の回答の中に、JAや福祉関係という就職先も見られました。また、長野と静岡では、公務員や大学編入を目指す学生の割合が45~28%となっていました。

## (2) 事務局用

### ア. チェーンソー等は備品か

チェーンソーについては、どの学校も備品や貸し出しの物を使用していました。防護服などの個人購入は群馬・岐阜・京都・島根の4校でした。前にも述べましたが、この4校は実習設備の満足度も高かったです。これは、自分にあつた装備を使用できるからだと考えられました。

### イ. 高性能林業機械の有無

高性能林業機械を所有しているのは、徳島・島根・岐阜の3校のみでした。その中でも現在の林業の主流となっているハーベスタとプロセッサは全国でも1~3校しか所有しておらず、多くの学校はリースなどで対応しており、これらを用いた実習を効果的に進めるには工夫がいるものと考えられます。

### ウ. 一般教養科目・専門科目はどれくらいか

一般教養を学んでいる学校は6校のみでした。専門教育を学んでいる学校がほとんどでしたが、科目数や時間にバラツキがあり、本当に中核を担うための一定以上の学習がされているのか疑問に思いました。岐阜については、コース選択があり正確な時間はわかりませんが、グラフに表示されている時間は全コースを足した場合のものであり、実際はこの時間より少ないと考えられます。

## 2 まとめ

以上のアンケートの結果から林業大学校が抱えている問題点について考えました。まず、本当に林業に強い意志を持つ人材が学んでいるかということです。入学理由が先生や家族に勧められたからという回答が多い学校もあり、自分の意志で入学していない学生もいるのではないかと感じました。また、学生の能力差により、学習や講義進行にバラツキが生じているのではないかとことです。より発展的な学習をしたいという意見もありましたが、多くの学生は現在の内容に満足しているという回答からそのように感じ、学生間に差があるのではないかと考えられました。

次に、一般教養科目・林業専門科目は適正で時間は十分か、林業現場の中核を担う人材を作る教育がされているかについては、優秀な人材になるためには最低限の知識は身につけなければなりません。しかし、各学校設立の趣旨に違いがあるため、各校のカリキュラムや時間数に差があるのではないかと考えられました。また、林業大学校と林業現場との間に乖離はないかということです。実習環境が現場とかけ離れていないかという点も考えられました。各地の林業大学校の連携が弱いという問題点もあげられました。

## 3 改善するには

まずは、林業界が求めている人材や内容を的確に把握し、教育につなげていくことが重要です。育成すべき人材は現場技能職員のみでなく、経営計画を立てるプランナーや行政職員など、多岐に渡ります。たとえば、林野庁に入庁する職員の多くが林業現場を知らないということも耳にします。現場に近い実践的な林業の技能と、体系的な理論をバランスよく学べるのが林業大学校の強みであり、林業現場をある程度知っている行政職員を輩出するというのも大きな役割です。そのためには、よりレベルの高い教育をするため、各教科の専門家や一流の林業士を講師として、講義内容の充実を図る必要があります。また、現場とのギャップをなくすために、最先端の機具や施設の拡充を図ることも大切です。

今回の調査で、各校のカリキュラムに大きな差があることが分かりました。これは、育成したい人材像が各校で異なっていることが一因であると考えます。一方、緑の青年就業準備給付金事業では、林業大学校で育成すべき人材像として「将来的に林業経営を担い得る有望な人材」ということを掲げており、それを達成するためには、県ごとの地域性は大切にしながらも、ある程度の教育内容のガイドラインを林野庁等が定め、教育水準を担保することが必要だと考えます。そして、各地の林業大学校の連携を強めるために、シンポジウムや伐木選手権のようなイベントの規模を拡大し、各校の技術・学習交流を深めることも大切です。林業大学校は就職率が高いという点も大きな魅力です。それをより強化するために、業界との協調を強くし就職先を安定的に確保していくことも重要です。

これらの改善により、自信を持って「林業大学校」を世の中に PR し、優秀な人材をより多く確保できるようにしていかなくてはなりません。

#### 4 長野林大の改善案

このような結果から、長野県林業大学校の改善案を4つあげます。

- (1) 大卒、社会人など広範囲から優秀な人材を呼び込み、新たに発展的な学習ができる過程を創設することを提案します。
- (2) 実習機械や設備の強化です。少しでも現場に近いものを使用し、即戦力になる人材の教育を強化すべきです。
- (3) 学生の期待に応えられる指導者の配置です。各分野のエキスパートを配置し、より深い知識・技能を身につけられるようにすることが重要です。
- (4) 時代に合った柔軟なカリキュラムの編成です。現場志望や公務員志望など、それぞれの進路でより役立つ知識を得るため、コース別の学習内容をさらに充実させる必要があります。

以上4つの点を改善すべきだと考えました。

おわりに

今回の調査に協力していただいた各校の先生方、生徒に感謝申し上げます。

次回アンケート調査を行うとすれば、さらに内容を充実させ、実態を把握しやすく改善策を見出しやすいものになりたいと考えました。

最後に、今後の林業界を盛り上げていくために、私達若い世代が意識を高く持ち、たゆまず、日々学習に取り組んでいかなければならないと思いました。

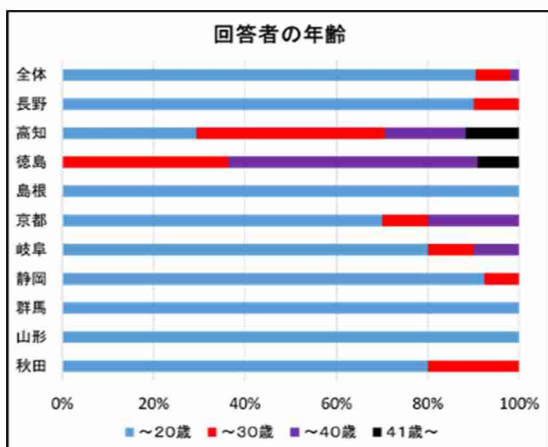


図1 回答者の年齢

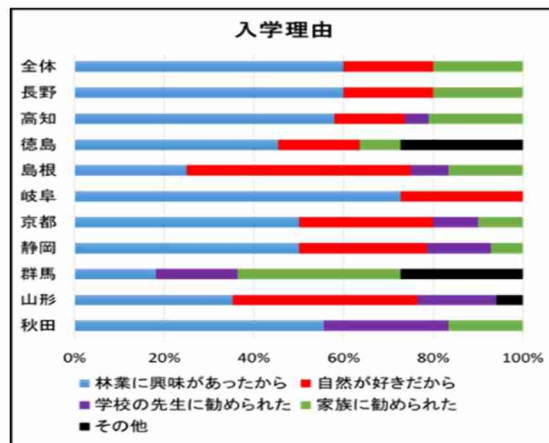


図2 入学理由

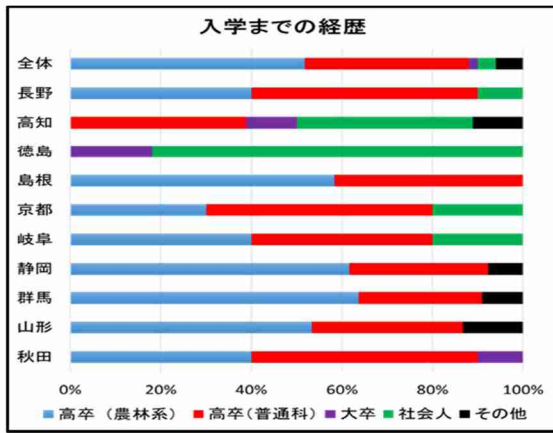


図3 入学までの経歴

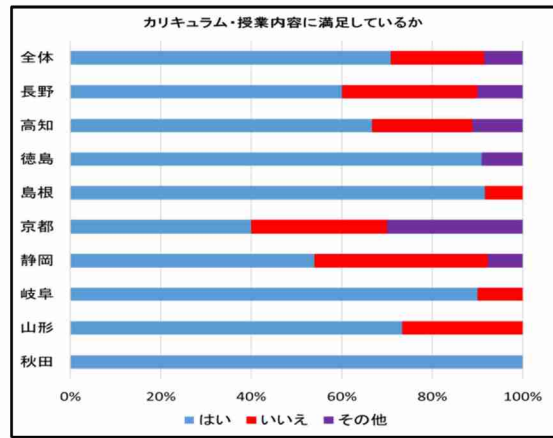


図4 カリキュラム・授業内容

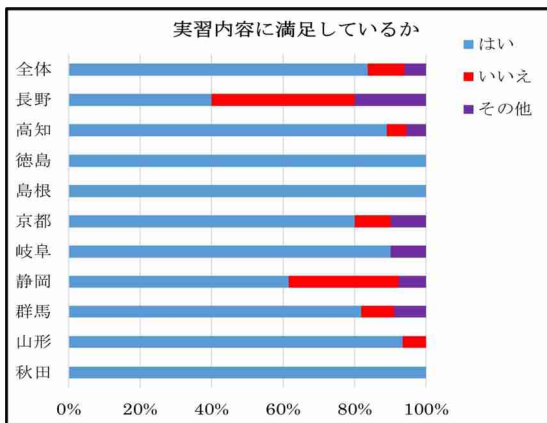


図5 実習内容

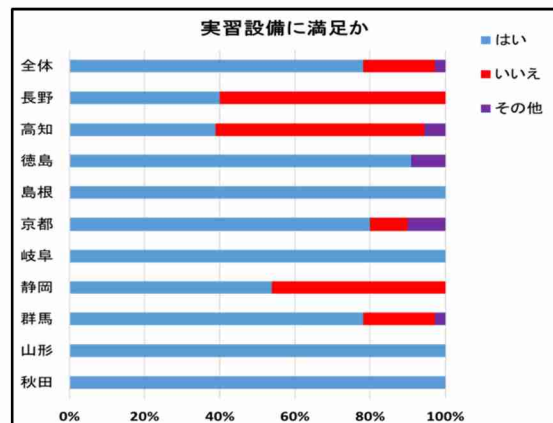


図6 実習設備

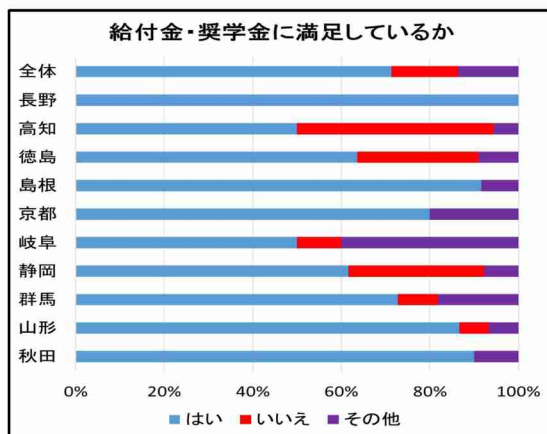


図7 給付金・奨学金

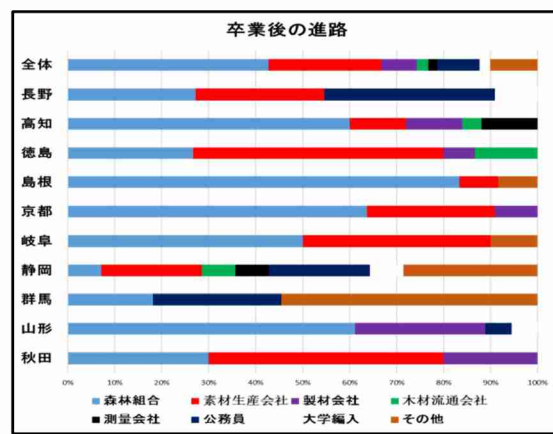


図8 卒業後の進路